

ロムルスとレムスの洞窟、発見



神話がついに現実となるときが訪れた。ローマ建国神話の双子の英雄ロムルスとレムスに雌狼が乳を与えたとされる洞窟(ルペルカーレ)と見られる聖堂が、初代ローマ皇帝アウグストゥスの屋敷の地下で発見された。

この大発見を行ったのは、パラティノーの丘のアウグストゥス邸修復のために地下を調査していたローマの文化財監督局で、技術者が操るレーザースキャン装置が巨大な地下の建築物を探り当てた。

その後の調査で、建築物は丸天井をもった古代の聖堂であることがわかり、丸天井の中央には、白い鷹の絵が描かれていた。皇帝を象徴するこの白鷹が、過去の資料の記述と一致することなどから、考古学者たちはここが伝説の洞窟にちなんで双子のために奉獻された聖堂であるとの見方で一致している。

イタリアではすでに「今世紀最大の発見」として、大きな話題となっているが、今後は周辺環境全体に範囲を広げた総合的な発掘作業が必要となるだろう。

cinema

『シルク』

2008年1月19日(土)

日劇3ほか東宝洋画系全国拡大ロードショー

© 2006 Jacques-Yves Gucia/ Picturehouse Productions



日本でも大ヒットした映画『海の上のピアニスト』の原作者アレックスサンドロ・バリッコの傑作小説『絹』。19世紀後半、蚕の卵を求めて日本へと旅するフランス人を描いたこのエピック・

ロマンが、フランソワ・ジラル監督の手によって映画化された。

バリッコの小説が奏でる「白い音楽」、そして、日本でありながら日本ではない異世界を、『レッド・バイオリン』など、音楽をテーマとする精妙な映画作りで定評のあるジラル監督が、圧倒的な映像美で描き出している。原作『絹』の日本語訳は、白水社から。翻訳：鈴木昭裕、白水Uブックス、998円(税込)。

『最後の夢』 L'Ultimo Sogno



製作: Alessandra Cinematografica S.R.L. <http://www.asahi-net.or.jp/~wh4m-okmr/scarpa2006.htm> イタリアの建築家カルロ・スカルパは日本の芸術を愛し、いつか中尊寺を訪れたいという願望を抱いていた。その夢は不運な事故により果たせなかったが、日本の建築家が彼の通るはずだった道をたどり、日伊協力の協力者たちと映画を製作した。Scarpa 生誕 100 年を迎えた今年、師にオマージュとしてささげる。

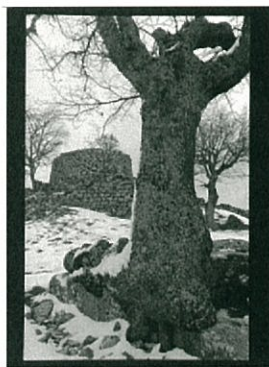
Il tempo dell'eternità

永遠の時 島国サルデーニャ



遠巻きにながめていた土地の人たちも次第に撮影に協力してくれるようになり、地元写真家も彼の選ぶショットスポットに集まるようになったと語る榎木氏。10年余のサルデーニャ滞在の集大成である写真展が銀座ニコンサロンで開かれていく。(12月12~28日 10:00-19:00 最終日は16:00まで)

SARDEGNA Seiichi Enomoto



地中海のコルシカ島とチュニジアの海岸の間にあるサルデーニャ島は、愛媛県を除いた四国とほぼ同じ面積(24,090 km²)を有し、約166万人の人口を抱えています。

この島には、ヌラーゲ文明と呼ばれるサルデーニャ固有の文明が紀元前15世紀頃から紀元前5世紀まで栄えました。その後、小麦、オリーブなどの農産物や銅、亜鉛、鉛などの鉱物資源、黒曜石、木材、塩などの天然資源を求めたフェニキア、カルタゴ、ローマ、ピサ、スペイン、ピエモンテにより侵略され、植民地としての統治が続きました。

しかし、サルデーニャの人たちは各時代の征服者への長い苦しい従属の中で、言語、芸術、料理、風俗習慣などで自らの確固たるアイデンティティを形成し、魅力的な伝統文化を築いてきました。

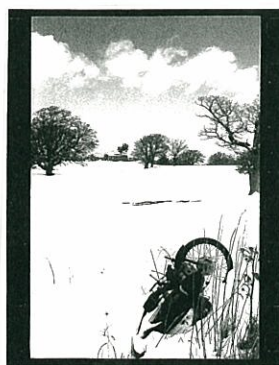
近年、グローバル化の激しい波の中で、彼らはイタリア国民である前にサルデーニャ島民であることを強く自覚して、その伝統文化の独自性を守り、自然保護の意識を高めています。

例えば、イタリア語の一方言ではなく、ロマンス語(新ラテン語)の一言語としてのサルデーニャ語の再評価と活用促進が挙げられます。カント・ア・テノーレ(男性四重唱)やラウネッダス(三本の葦笛)などの民族音楽の重要性も認識されるようになりました。

更に、サルデーニャ州政府は景観法(島の2万4000km²に及ぶ全ての海岸線から2km 範囲の土地に新たな建築物を建設することを禁止)を2004年11月に制定し、美しい海岸や入り江を保護し島民共有の貴重な財産として後世に引き継ぐことを試みています。

私は1997年から島の南に位置する州都カリアリ(人口約20万人)に在住し、サルデーニャの過去の遺産の豊かさや自然の美しさに誇りを持つ数多くのサルデーニャ人と知り合いました。

彼らの生活とその基盤である風土にカメラのレンズを向けることにより、この島国に対する私の感受性が豊かになり理解も深まりました。



展示した写真は、私とサルデーニャとの10年間の交歓の記録であり、この島国が地中海のただ中で、様々に吹く風を受けながらも永遠に存続するであろうという私の受けた確信に近い印象を、これらの写真が裏付ける証しになれば望外の喜びです。

"Bisogna essere diversi per essere vivi"

互いに違っていなければ、生きていけない。



生物の多様性を守る農業がいまイタリアで試みられている。農業が産業として発達する前は、同じ土地にさまざまな種類の植物の種を撒き、同時に栽培していた。多様性が自然に尊重されていたのである。過去、人類は8000種類の植物を農作物として利用してきたが、いまでは150しか残っていない。「食と農業の未来」国際委員会メンバーのマルチェッロ・ピアッティ氏は、「違いのないところに生命は存在しない。生命体は変化できなくなると死んでしまう」と警鐘を鳴らす。非遺伝子組み換え作物政策を積極的に推進するイタリアは、多くの異なる種類の種を撒いて栽培する「守護農家 agricoltori custodi」を指定し、その成果をEU全体で活用できるよう、ブリュッセル本部に働きかける。

●現代イタリア人アイコン画家リーナ・デルペーロ

『アイコンとリトグラフ展』 ギャラリー・アルカンジェリ

2008年1月12日-3月2日
古い資料や文献の研究を通して、伝統的な手法、技術を独自に習得したリーナ・デルペーロ。その作品は現代人の心に訴える。



Gallery Arcangeli
東京都台東区浅草橋 4-3-4
TEL: 03 3851 8596
JR浅草橋駅西口より秋葉原方面へ徒歩2分



●カルロ・ザウリ展

ファエンツァの陶芸作家
Carlo Zauli (1926-2002)
の作品からは大地の鼓動が伝わってくる。



岐阜県現代陶芸美術館 2008・4/19-6/1
東京国立近代美術館 6/17-8/3
山口県萩美術館・浦上記念館 8/26-10/26

<http://aditalia.jp>



Italiano Giapponese
イタリア語 ⇄ 日本語

翻訳 Traduzione

各種証明書・契約書
音楽・美術・法律
レター・論文・マニュアル
ファッション・スポーツ・料理

通訳 Interpretariato

同時・逐次通訳
商談・テクニカル
記者会見・セミナー
インバウンド・ガイド

tel: 03-5296-1930
fax: 03-5296-1940

アド・イタリア株式会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-19-14
AD ITALIA Co., Ltd.
2-19-14 Sotokanda, Chiyoda-ku, Tokyo
ad@ad-italia-tokyo.com